

姉の思い出——わが幼き日

河村郁子

十五もの歳をへだつる長の姉幼き日よりの憧れなりき

わが物心つきし頃には女学生 ベルトに櫻の校章が付く

通学は東京駅より水道橋 省線のホームへ木の階段あり

外堀と通りをへだてて見送りぬ 階段^{*}上る姉の名呼びて

*東京駅八重洲口

家業継ぐ定めを負ひて進学を断念したると何度も聞きぬ

保育士の資格取得は許されて童謡遊戯をわれにも教へる

振付を専修したる姉貴より舞踊習ふを厭ひていたり

創作の所作にしあらば変更が度重なりて舞台に迷ふ

学芸会傷病兵への慰問へと駆り出されしが今になつかし

疎開どき覚えし身振りや童謡を繰り返しむたりひとり密かに